

(三) 中原区

1 福祉・医療施設の整備をすすめる。

ア いまだ不足している特別養護老人ホーム、小規模特養ホーム、小規模多機能型介護施設を区内でもあらゆる方法で適地を確保し、建設する。人口急増地域である丸子地区に地域包括支援センターを整備する。

イ 「保育園に入れなかった」という区内保護者からの声は後を絶たない。認可保育園の増設をすすめる。

ウ 10年前から住民が要望している今井中学校地域の老人いこいの家は未だに未設置となっている。「機能重視」の考え方で転換したでは市民は納得できない。敷地を確保し整備する。

エ 住民が運行の継続を求めていた井田病院行のシャトルバスがなくなった為、新たな小型バスを活用して、住宅街でも運行できるように新路線を設ける。

2 教育環境の改善をすすめる。

ア 学校施設長期保全計画を理由に、老朽化等により各学校から出ている補修など次の要求を先送りすることなく早急に対応すること。

イ 木月小学校へエレベーターの早期設置を行う

ウ 給食のアレルギー対応が実施できていない下河

原、木月小の二校について、実施できるよう対応を急ぐ。

エ 未だに空調未設置の給食室への空調設置を急ぐ。

3 毎年市民から陳情が上がる公園の樹木の剪定と草刈り、多摩川河川敷の草刈り、幹線道路の街路樹の剪定、歩道部分の整備など定期的に行なう。河川敷の土手の階段に手すりを設置して安全対策を図る。

4 文化スポーツ施設を充実させる。

ア 玉川地区ならびに新城・上小田中地域に生涯学習活動と市民活動の拠点施設を整備する。図書館分館機能も確保する。

イ 等々力緑地のPFI手法を用いた整備計画がすすめられる方針だが、地域住民要望にしっかりと応えていく。

① 遅れている釣り池のしゅんせつを検討段階から具体的化する。親水デッキを点検し、護岸と合わせ整備、蓮池を配置する。稼働基を増やし、水質保全に努める。

② 障害者スポーツ施設を整備の候補地として検討する。

③ 等々力下水処理場の上部の暫定利用は、市民が憩える芝生の多目的広場に整備する。また、上部利用については再度、関係団体等を含めて協議を行ない、少年野球場やパークボール場の設置などの具体的な設置計画を急ぐ。

5

- ④ 等々力緑地内の樹木の強剪定は行わない。
交通安全対策を強め、道路の改修をすすめる。
- ① 区内の交通事故多発地域を総点検し、交通安全対策を確立する。消えかかっている横断歩道、停止線の白線は特に通学路は優先的に整備する。
- ② 多摩沿線道路の信号機、横断歩道が設置されている付近の階段、スロープを整備する。また、手すりを設置する。
- ③ 道路危険箇所を総点検し、夜間に効果があるソーラ式の「危険と注意」を促す表示板を計画的に設置する。
- ④ 宮内交差点歩道が整備されたところで、東電、N T Tの電柱が歩行者の妨げになって危険である。すぐに電柱の移設ができなくても、安全対策をはかる。
- ⑤ 二ヶ領用水（西下橋から高津方面）の歩道の整備を実施し、切り落としたままになっている木の株の整備計画を立てる。
- ⑥ 老木化が進む渋川沿いの「住吉ざくら」について、地域町内会、住吉観光協会と連携して保全を図る。
- ⑦ 毎年南武沿線道路沿いの街路樹であるユリの木の剪定回数を増やす。
- ⑧ 武蔵新城から400メートル離れた新城児童公園と太陽幼稚園を横断する双方の交差点に音声信

号機・シグナルエイドを設置するために必要な待機スペースを確保する。

6

- ⑨ 武蔵新城北口の歩道に点字ブロックが整備された。J Rに交渉し駅まで点字ブロックを整備するため、横断歩道の整備を中原警察署に申し入れるとともに安全対策を検討する。
 - ⑩ 旧総合自治会館から409号線を渡る人が多いため、横断歩道の整備を中原警察署に申し入れるとともに安全対策を検討する。
 - ⑪ 中原小学校付近の府中街道歩道（小杉方面）が狭く、電信柱があり車イス等が通れない。電柱の移動、無電中化等、安全対策を図る。
- 下水道整備、水路対策をはかる。
- ① 下水道整備完了地域のL型側溝整備を積極的に推進する。
 - ② 2025年9月11日の短時間大雨時、矢上川の水位が上昇し溢水、浸水被害が発生した。矢上川の河川管理道路に雨水貯留管、下水本管敷設を急ぎ、水洗化を促進する。
 - ③ 既設側溝の不完全な箇所は蓋かけをし、早急に改良する。側溝は定期的に清掃し、老朽化のほげしい側溝については改修する。
 - ④ 台風19号により甚大な被害が発生した下沼部、上丸子山王町地域においてパイパス菅の整備が示されたが、抜本的な対策となるポンプゲートの設置等、更なる対策の具体化を急ぐ。
 - ⑤ 下小田中四丁目アップルベビールーム前の側溝

を整備しL型側溝に改修する（蓋の穴を繰り返し補修している）

7 交通空白地域をなくす。

ア 国際交流センターをアクセスし、下小田中地域を
通って武蔵小杉駅などの主要駅までを結ぶ小型バ
ス、コミュニティバス路線を新設する。

イ 小杉陣屋町、木月四丁目、井田三舞町、井田杉山
町、下小田中三丁目、下小田中六丁目、及び井田病
院周辺地域には、路線を新設する。小型バス、コ
ミュニティバスを導入する。

ウ 宮内新横浜線を利用して溝の口・新城・小杉駅バ
ス路線を新設する。

エ 中原62系統は朝の3便となっている。日中の時間
帯も運行するよう、臨港バスに要望する。

オ 2020年7月以降、平日26便から3便に大幅減
便された臨港バス「川60系統」の増便を臨港バスに
要望する。

8 南武線及びJR線、東急線関連では、次の施策をす すめる。

ア JR南武線は車両の増車をすすめる。

イ 横須賀線ホームはホームドアの設置を急ぐ。

ウ 南武線立体交差事業の高架下の活用は市民のため
の施設を最大限確保するよう引き続き努力する。

エ 御幸踏切より南側、新川崎方面へ向かう横須賀線
が高架を下る際の騒音が大きいため対策を講じる。

オ 御幸踏切は相変わらず遮断時間が長い。エレベ
ータ設置を検討する。

カ 平間駅前踏切付近の拡幅等、更なる安全対策を急
ぐ。

キ 国から指定を受けた平間駅前、向河原駅前踏切に
点字ブロックを設置するようJRへ求める。

ク 小杉駅綱島街道改札の営業時間を朝6時からとす
るようJRに要請する。

9 住みよい市民本位のまちづくりをすすめる。

ア 武蔵小杉駅周辺は人口増加が著しいにも関わら
ず、緑地の確保は桁違いに遅れている。上丸子小学
校区など、中原区で公園の優先配置地区になっ
て7地区について、土地の買収などあらゆる方法で
公園の設置をすすめる。

イ 二ヶ領用水の清流化を促進し、清掃としゅんせ
つ、定期的に維持用水を放流し、水質浄化をはか
る。親水化未整備地域は年次計画を立てて完成を急
ぐ。河川の清掃、護岸、沿道の草刈りを定期的に行
う。

ウ 洪川の整備・親水化を地元住民と協議してすすめ
る。当面、カルガモや動植物の生態系を確保しなが
ら、定期的に清掃・雑草刈りの作業を行なう。洪川
の親水化整備に伴い、清流を活かした教育用の自然
エネルギー・水力発電整備をすすめる。

エ 井田・市営バス営業所は、公共施設の併設など有

効活用をはかる。

オ この間の武蔵小杉周辺再開発・超高層マンション建設では以下の対応が求められている。

① 再開発がすすむ小杉駅周辺は人流の増加が続くが、信号機が設置されていない横断歩道が多い。適切な信号設置を交通管理者に求める。

② 超高層マンションの防災対策を具体化する。

③ 人口の急増に見合うこの周辺の文化施設があまりにも貧弱です。小規模な音楽ホール、映画館を事業者とも協議して、区民が気軽に利用できる文化施設を整備する。

⑤ 小杉全体のまちづくりに責任をもつ行政の窓口を明確にし、再開発にあたっては、川崎市の考え方を丁寧に説明し、住民の意見を積極的に聴取し、その内容を計画に反映するよう事業者に指導し、その内容含めて住民に明らかにすること。

⑥ 風害については、マンションなどを誘致してきた川崎市が責任をもって対応すること。

⑦ 今後も超高層マンション建設が計画され、小杉周辺は超過密都市になるうとしている。住宅地への建設は風害、複合日影、交通渋滞など、重大な環境破壊を引き起こす。日本全体は急激な人口減少時代を迎え、川崎市も2030年を境に少子化時代を迎える。50年、100年先のまちづくり、人口減少社会にふさわしい人間が大切にされるま

ちづくりこそ求められている。高度経済成長期の規制緩和の都市再生の手法である小杉駅周辺再開発のやり方を抜本的に見直すこと。地元の意見要望をまったく反映されていないのが現状です。市が住民の立場にたつて、地元の意見要望が取り入れられる指導を重ねていく。

⑧ 駅から区役所へ向かう交差点（角に王将あり）に音声付信号機を設置してほしい

カ 井田山、伊勢山台など、区内に残された貴重な斜面緑地を保全するため、積極的に買収、保全協定締結などの措置をとる。特に、開発が頓挫している斜面緑地への対策を急ぐ。

キ 江川のせせらぎ水路整備事業、井田山緑地を含む区民の健康の森にかかわる維持管理計画を作成し、行政の責任を明確にし、住民の意見を反映した十分な財源措置をはかる。江川せせらぎの藻の発生・悪臭の原因を明らかにし、抜本的に水質改善をはかる。

ク 第三京浜の高架下（中原区内に隣接する区間を含めて）の騒音・大気汚染などの抜本対策をおこなう。

ケ 河川敷の上平間サッカー場に排水管を敷設し、水はけを良くするよう国土交通省に働きかけ、実現する。

コ 時計が未整備となっている公園については、計画的に整備をすすめる。公園にトイレの増設をすすめる。

サ 宮内新横浜線整備によって立退きをはじめ影響を受ける住民や事業者に対しては意見や要望を積極的に聞き入れて、誠意をもって対応する。

シ 雨水工事をきっかけに、短期間に3度の地盤沈下をおこしている新城地域の地盤（地質）調査を行う。

ス 旧総合自治会館周辺中心に二カ領用水・洪川桜並木の植え替え計画を、住民とともに進める。

セ 武蔵新城、向河原、平間、元住吉駅にも市立図書館の返却ボックスを設置する。

ソ 大型物流倉庫建設が予定されている西加瀬三菱ふそう跡地再開発について住環境に大きく影響が出る近隣住民の要望を聞き取り、事業者との調整、指導を行う。

タ 平間公園の水はけの悪さを改善する。